

SHINJI
YOSHINO
吉野信次

と市政に参加する 1000人の会 NEWS

発行 吉野信次と市政に参加する1000人の会

住所 松戸市新松戸3-137松栄ビル3階 松戸住民ひろば内

電話・ファックス 047-349-2132

E-mail shinji-1000party@msj.biglobe.ne.jp

郵便振替口座 00130-0-76000

http://www5b.biglobe.ne.jp/~matsudo/

原発震災って知っていますか？

阪神・淡路大震災から10年、新潟中越地震、スマトラ島沖大地震・大津波と自然災害の脅威にさらされています。政府は、首都直下の大地震や東海地震の発生確率について、30年以内に首都直下で70%、東海地震で84%と公表しています。

大地震国日本で、地震や津波の時に、原発は大丈夫か？不安が拡大しています。

東海地震の震源域が発表されましたが、そのほぼ中心に浜岡原発5機が稼働しています。巨大直下地震が確実視される場所で稼働している原発は、世界中でも浜岡原発だけです。

浜岡原発の1.2号機は、東海地震が判る前に計画・設計・施工されたものです。

●原発震災が発生すれば

地震災害の上に、放射能汚染が起きれば、救援医療活動も復旧活動も全く別物になります。基本的に人が近づけなくなります。地震災害でメチャメチャになっている街に放射能汚染が襲う様子を想像してみてください。

日本上空は偏西風が多く、風下に当たる関東平野が放射能汚染にさらされることになります。人口密度が極端に高い首都圏での被害は、急性死する人も含めて176万人もが後にガンになるとの試算もあります。

中部電力では、原発が占める割合は12%にすぎず、地震は止められなくても、原発は止めることができます。

原発震災だけはストップさせようと、現在「原発震災を防ぐ全国署名」が取り組まれ、大きな広がりを見せています(3月1日の「3.1ビキニデー」を最終集約)。

こうした運動の広がりにより危機感を持ちだした中部電力は、浜岡原発の耐震強化のために、これまでの600ガルから1000ガルまで引き上げる「指針の見直し」に着手しようとしていますが、このごまかしを許してはならないと思います。



●ストップ！原発震災の世論を！

このような原発震災を発生させないために、この松戸市民の中から「原発震災を止めたい松戸市民の会」の発足と「映画と講演会」の企画が始まりました。3月26日(土)に映画『東京原発』の上映と講演「原発震災を知っていますか」の企画です。この企画をスタートに、市内各所でのミニ集会・映画上映と原発震災についての論議を巻き起こしていきたいと思っています。原発震災を発生させないために、浜岡原発をストップさせよう！の世論をさらに大きくしていきましょう。

原発震災って知っていますかー映画と講演会

▼日時／3月26日(土)PM5～9

▼場所／松戸市民会館 301号室(Tel.047-368-1237)

▼参加費／700円

▼内容／映画「東京原発」 講師／古長谷 稔さん(原発震災を防ぐ全国署名連絡会)

▼主催／原発震災を止めたい松戸市民の会(Tel・Fax047-349-2132 松戸住民ひろば)

ごみの有料化は、松戸のごみ問題解決のエースか？

●限界にきているごみ問題

今、全国各地で「ごみ問題」が緊急で重大な問題となっています。日本のごみの排出量は、家庭・事業系ごみ（一般廃棄物・一廃）で 5210 万トン、産業ごみ（産業廃棄物・産廃）で約 4 億トン（01 年度）にも達しています。一廃の中で、家庭系ごみの排出量は 3480 万トンで、ごみ全体の 7.7%を占めています。

排出されたごみは、再利用や資源化もされていますが、8 割ほどが焼却されています。残さや直接の埋め立てで、5995 万トンものごみが、全国各地で埋め立てられています。最終処分場の残余年数は、一廃で 12.5 年（02 年 3 月末）、産廃で 4.3 年（02 年 4 月）と「ごみ非常事態」が生まれています。

日本のごみ行政は、発生源で減らしたり、なくしたりする制度が弱く、「出たごみをいかに処理するか」「燃やしていかに減らすか」という焼却中心の制度です。ごみを発生源で減らさない限り、ごみ問題の根本的な解決はできません。

●知っていますか、「拡大生産者責任」

廃棄物に関する法体系は、「循環型社会形成基本法」で廃棄物の適正処理、リサイクルの推進を決めています。ごみ問題の解決の前提として、第 1 にごみを発段階で出さないようにする（リデュース）。第 2 に繰り返し使用するようし、ごみの発生を抑える（リユース）。第 3 に再生して資源を循環させる（リサイクル）。第 4 に燃料

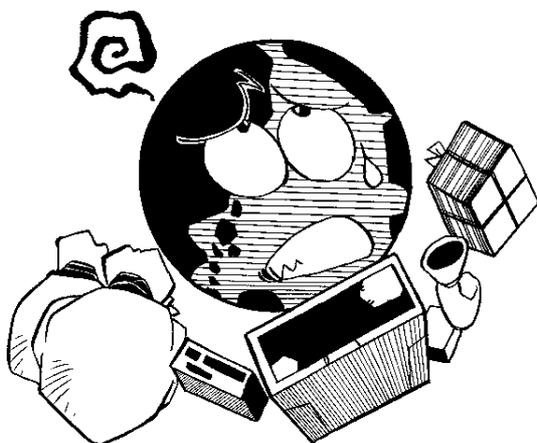
として利用する（サーマルリサイクル）としています。ところが、実際のごみ行政は、従来の施設中心、焼却中心のやり方を変えていません。個別法としては、容器包装、家電、食品、建設、自動車等の各リサイクル法がありますが、「拡大生産者責任」「デポジット」などが、製造・使用企業や財界の圧力で盛り込まれていません。この法改正が緊急の課題となっています。

●有料化ではごみ問題は解決しない

環境省の中央環境審議会「廃棄物・リサイクル部会」は、昨年 10 月に「意見具申」を行い、一廃の有料化について、「一定の減量効果」「負担の公平化」「住民の意識改革につながる」との提案をしています。ここ数年で、有料化する自治体も拡大し、家庭系ごみでは 73.2%、事業系ごみで 87.4%に達しています（粗

大ごみを除く、01 年度）。有料化によって減量化するのか、実際は有料化後の数年を見ますと、ごみは増えだしています。

この松戸市でも、昨年 6 月から「資源循環型社会構築検討委員会」で、ごみの減量化や家庭ごみの有料化が検討され、3 月には提言が出されます。最終処分を他県・他市に頼る状況で、ごみの減量は緊急の課題です。生ごみの資源化など、市民と行政が連携して、ごみの減量のために何ができるのか真剣に検討を開始するときです。



松戸のごみを話し合う市民の集い

松戸のごみ状況、資源循環型構築検討委員会の動向、生ごみの資源化の流れなどを意見交換し、今後の提言と市民の行動を検討したいと思います。

- ▼日時／2 月 20 日（日）PM6～8
- ▼場所／市民会館 201 号室（Tel.368-1237）
- ▼参加費／200 円
- ▼主催／生ごみ資源化を考える松戸市民の会（仮称）
（Tel.349-2132）

松戸市議会 3 月定例会の予定

- ▼ 2/18（火） 請願・陳情提出期限（正午）
- ▼ 3/1（月） 定例会招集日
- ▼ 3/2（火） 各常任委員会（先議議案）
- ▼ 3/4（木） 本会議（先議採択）
- ▼ 3/7、9、10 日 本会議（一般質問）
- ▼ 3/14（月） 常任委員会（総務財務、健康福祉）
- ▼ 3/15（火） 常任委員会（教育経済、都市整備）
- ▼ 3/16、17、22、23 日 予算審査特別委員会
- ▼ 3/25（金） 本会議（最終日）